

令和4年度 第4回理事会議事録

1. 開催日時及び場所

(1)開催日時 令和5年3月13日(月) 10時32分～11時47分

(2)開催場所 山崎理事長自宅

(3)開催形式 web会議システム「Zoom」による開催

<https://us06web.zoom.us/j/85214027038?pwd=OFZEcHBld2dkTDFCQ1FWQlJ5Y0dRZz09>

ミーティングID: 852 1402 7038

パスコード: 504346 (今回1度きりのパスワード)

議長の山崎理事長は自宅から出席し、当該開催場所に存しない理事及び監事は各自の居場所から上記の web 会議システムにより出席した。

なお、遠藤専務理事、稲田事務局長、小定副事務局長、安田みおはちよだプラットフォーム地下005会議室より参加した。

2. 理事数及び出欠理事数

(1)理事数 9人

(2)出席理事数 8人

(3)欠席理事数 1人

3. 出欠理事の氏名

出席者:山崎直子、遠藤守、麻生茂、高田正隆、中沢孝、藤島豊久、室山哲也、虎野吉彦

欠席者:上垣内茂樹

4. 出欠監事の氏名

出席者:棚橋秀行

欠席者:富田力夫

5. 事務局の氏名

稲田伊彦、小定弘和、安田みお(議事録作成)

6. 審議事項

第1号議案 令和5年度事業計画書(案)及び令和5年度収支予算書(案)について

第2号議案 2023年度からのYAC活動委員会のミッション案について

7. 報告事項

(1)理事長の職務執行状況報告

(2)専務理事の職務執行状況報告

8. 議事の経過及びその結果

事務局小定が zoom ホストとして、web会議システムにアクセスする出席者全員を受入れ、一人ひとりに、音声と画像が即時に他の出席者に伝わり、相互に十分な議論を行うことができる環境であることを確認した。

(1) 理事会開会宣言

開会に先立ち、2月13日に逝去された松本零士前理事長が財団設立当初より日本宇宙少年団活動に力を注がれた功績を偲び、出席者全員で黙祷を捧げた。

定款第33条に基づき、山崎理事長が議長となり理事会を宣し、本理事会の議事進行については遠藤専務理事があたり審議に入った。

(2) 出席者と定足数の報告

遠藤専務理事より、定款第34条に規定する定足数を満たしており、本理事会が成立している旨を報告した。

続いて、審議に入る前に事務局 安田より、本日理事会資料確認を行った。

(3) 令和4年度第3回理事会議事録確認

遠藤専務理事より、令和4年度第3回理事会議事録について確認したところ、特に意見等なく承認された。

(4) 審議事項

【第1号議案】 令和5年度事業計画書(案)及び令和5年度収支予算書(案)について

事務局 小定より、資料No.1 令和5年度事業計画(案)について、説明を行った。

続いて、事務局 安田より、資料No.1 令和5年度収支予算(案)について、説明を行った。

遠藤専務理事より、第1号議案について意見を求めたところ、次の意見及び質疑応答があった。

棚橋監事より、決算見込みの説明を受け、賞与をもう少し上げられないかの意見があった。

虎野理事より、今年度実施するアンケートについて、これから少年団はどうしたらよいかという漠然としたアンケートなのか、あるいはもう少しブレイクダウンして逐次質問を並べていくやりかたなのか、どちらを想定したアンケートなのか、質問があった。

事務局安田より、アンケート内容は漠然としたフリー形式で意見を徴収するやり方を想定している旨、説明を行った。

虎野理事より、資料P3「調達資金及び施設設備投資見込みを記述した資料」の(2)設備投資の見込みについて、当期の重要な設備投資と記載の「重要な」と付ける意味は何か、との質問があった。

事務局安田より、当財団が借入してまで設備投資を実行することが重要であると判断した内容を指す意味である旨、説明を行った。

これに加え、遠藤専務理事より、保有財産や公益性をチェックする意味においてもこのような項目を記載する書類を提出させる目的もある旨、補足説明があった。

麻生理事より、40周年に向けたアンケート実施について、ざくっとした内容でのアンケートになると、団員にしても各分団の指導者にしてもどういう内容を答えて良いのか分からないかもしれない。また、そのアンケート結果から何を知りたいかということもあるので、自由記述は残しておき、質問内容は、いくつかブレイクダウンする必要があると思う。アンケートを取る際には事前に理事会に諮ってもらい、何回か咀嚼したものを最終的にアンケートにしてもらいたい旨、意見があった。

遠藤専務理事より、そのように皆様の意見を基にしたアンケート内容にしたい旨、発言があった。

高田理事より、先ほどの棚橋監事の意見同様に、給与賞与を上げるためには収入を増やさなければならない、ステークホルダー(寄附者)へのフィードバックをきちんとすることによって更に寄附が増えた団体の事例を聞くことがあるが、賛助会社や寄附会社に対するサービスは考えているか、質問があった。

これに対し、事務局小定より、賛助会社へは YAC 団員と同じものを送り、YAC 団員には賛助金

や寄附によって運営がなされていることを伝えている旨、説明を行った。

事務局安田より、寄附額の大きい会社には、報告書を作成し、担当者に御礼と報告を行っている旨、説明を行った。

高田理事より、賛助会社や寄附会社がもっと寄附して良いと思ってもらう、あるいは社内で稟議書を通しやすいようにしてあげる努力や PR をしていかないと今は経済情勢も厳しく、脱退や会費を下げたいといった動きになっていくので、新たにネットビジネスの会社を賛助会社にしていくためにもそういった工夫をしていかないと危険であると思う旨、意見があった。

遠藤専務理事より、ぜひアイデアがあればいただきたい旨、発言があった。

事務局小定より、高田理事の質問に関連し、自社宣伝も兼ねることをメリットと捉え、加入していただいている賛助会社もいる。自社の商品を宇宙少年団の子ども達に紹介したい時に賛助企業になってもらえたら、賛助企業からのお知らせという形で配布することができる旨、説明を行った。

山崎理事長より、ご意見としてはおっしゃるとおりと思う。そのため、寄附だけでなく色々な事業も含めて、如何に多角化して持続可能にしていくかは引き続き検討していければと思う旨、意見があった。

藤島理事より、宇宙少年団の活動や目指していること、地域で何をやっているのか、子どもたちの環境も変わっていているので、賛助会員にはこれら内容の成果を強くPRしていただきたい旨、意見があった。

高田理事より、パーパス経営を例に、YACはどういう団体で35年経ち、新しく変わっているというアピールを外部にできないと、コロナ禍の3年間で民間企業はやり方が大きく変わってきていることも踏まえ、アンケートを取る前提であるならば、パーパスがはっきりしていないとアンケートと個別意見に振り回され、まとめる人がいない状況に陥ることになり、大事な話が抜け落ちてしまう。

仮説設定や目指すものがあり、「宇宙教育」といっても世の中には色々な宇宙教育があるので、ぜひともアンケートを取ることを踏まえ、35年経ちこのように変わろうとしていることを、山崎理事長を中心にまとめていただきたい旨、意見があった。

遠藤専務理事より、第1号議案について諮ったところ、全員一致で了承された。

【第2号議案】 2023年度からのYAC活動委員会のミッション案について

麻生理事より、資料No.22023年度からのYAC活動委員会のミッション案について、計画内容と予算について説明を行った。

遠藤専務理事より、第2号議案について意見を求めたところ、次の意見及び質疑応答があった。

虎野理事より、団員の件で、元々は小さい子を対象に「宇宙少年団」と付けたのだと思うが、今は大学生や保護者も引き込んでいくのであれば、この名称の「少年」が引がかかるためもっといい言い方がないかを考えた方がよいと思う旨、意見があった。

遠藤専務理事より、性別年齢にかかわらずもっと多様性を認めたような組織活動のイメージが沸くようにしたく、事業計画にあるアンケートはその意味も含めて行おうとしている旨、補足説明を行った。

室山理事より、自分が関り始めてから度々発言してきたが、「宇宙少年団」とは一体何だというコンセプトを踏まえる必要があると思う。資料内容の一つ一つの背景には貫くコンセプトがあり、そういうものが並んでいるだけという印象も受ける。もっと YAC が大きく目指そうとしているコンセプトの太い幹がしっかりみんなで把握できていれば、先ほどの名称にも繋がるし、そういうディスカッションや議論する場が必要だと思う。

世の中にメッセージを出すときは、今の時代に共鳴するワードがないといけないし、今の時代でいうと「持続可能である」「宇宙時代の生命観」など、今の時代が求めている何か大きなコンセプトにこの活動がいつも接触しているという感じが届くような打ち出し方が必要である。

それから、宇宙活動そのもの以外にもチャレンジしていく心の世界があるならば、こういう活動の中に何かチャレンジしている人達も出入りしている形で一つのコンセプトが大きく充実していくようなパワーを感じる仕掛けみたいなものが必要ではないかと思う旨、意見があった。

遠藤専務理事より、第2号議案について諮ったところ、全員一致で了承された。

(5) 報告事項

① 理事長の職務執行状況報告

山崎理事長より、資料No.3に基づき、理事長の職務執行状況について、報告を行った。

② 専務理事の職務執行状況報告

遠藤専務理事より、資料No.4に基づき、専務理事の職務執行状況について、報告を行った。

(6) その他

遠藤専務理事より、次回6月の決算理事会開催日程について、2案候補日をもって理事及び監事の日程を確認したが、都合がつかない等の理事・監事もいることから、事務局を通して日程調整を行うこととした。

開催方法は今回と同じく zoom によるオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド式で実施したい旨、説明を行い、出席理事、監事全員一致で了承された。

(7) 参考資料

事務局小定より、参考資料の団員推移表について説明を行った。

遠藤専務理事より、参考資料について意見を求めたところ、次の意見及び質疑応答があった。

中沢理事より、大学生以上の人数が大幅に増えているのは、保護者が団員になるケースが多いのか、質問があった。

事務局小定より、家族団員が増えたというより、高校生から大学生に継続していく人数が増え大学生の人数が増えたことによるものだと思う。兄弟で家族団員の場合は、下の子がやめない限り上の子も継続するケースが多く、上の子が高校生や大学生になっても継続されることで、数が増えているという見方である旨、説明を行った。

遠藤専務理事より、遠藤理事より、以上をもって全議案審議を終えたことを述べた。

山崎理事長より、本日の理事会は様々な意見があり、まだまだ議論が尽きない点もあった。今後こういった意見を集約する場として、次回理事会はハイブリットを目指すということから、その場でもう少しゆっくり時間を取り、YAC が何を目指していくか等もアンケート結果を基に集中して議論してい

けたらと思う旨、閉会の挨拶があり、令和4年度第4理事会は11時47分に閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長並びに出席した監事は記名押印する。

以 上

令和 5年 3月 13日

(議長)

理 事 長 山崎 直子 (押印済)

監 事 棚橋 秀行 (押印済)